

西小だより



学校の教育目標:よく考え 仲間とともに やりぬく子 合い言葉 "Yes, we can."



次世代に引き継ぐべきもの

校長 岩崎 千宏

新年度がスタートして、はや3ヶ月…1学期も余すところわずかとなりました。先週は6年生の修学旅行が行われ、これまでの学校での学びを実社会の中で試す貴重な機会となりました。今年のスローガンは『しかせんべい』…「**し**ずかに**か**んがえて行動、**せん**せいの言うことを聞く、**べ**つ行動をしない、**い**のちを大切に」という願いのもとに実行委員が打ち出したものです。当日まで何度も行ってきた打ち合わせや事前学習を思い起こしながら、実りある2日間にするためにそれぞれの係が自らの役割を着実に果たす姿や、しおりを確認しながら早め早めに行動する姿に最高学年としての自覚や誇りを感じました。

奈良・京都は近隣の小学校の修学旅行の定番であり、研修先も私自身が小学生の時とほぼ変わりありません。ただ当時と大きく異なるのは、外国人観光客の多さです。どこへ行っても、様々な言語が飛び交い、周囲を見渡すと外国人ばかりで、自分が異国の地にいるのではないかと錯覚するような瞬間すらあります。

これだけ、日本の歴史的な建造物や文化が世界の注目を浴びるのは、単に世界遺産に認定されたとか、旅行業者のパッケージに組み込まれているという理由だけではないと思います。何度訪れても新たな感銘や感動を受ける奈良・京都の魅力やその歴史的価値、そしてそれらを長年に渡って守り抜いてきた先人の功績の大きさを、当事者である日本人がしっかりと受け止めているだろうか。そんなことを今更ながら考えさせられた2日間でもありました。

今年も6年生の子ども達には、外国の方と英語でコミュニケーションをとる課題が示されていました。緊張しながらのあいさつに始まり、「どちらの国から来られましたか?」「あなたの好きな日本食は?」「あなたが好きな日本のアニメーションは?」……スペイン、韓国、中国など英語圏ではない外国人ともあたかも以前からの知り合いのようにフレンドリーに打ち解けている姿に驚きました。これまでに学んできた外国語活動の積み重ねが、このような社会実践につながったのだと思います。貴重な時間を割いていただいた御礼に手渡した鶴や手裏剣などの折り紙に、外国の方が返してくださる温かい笑顔が印象的でした。

国際化・情報化が伸展し続ける社会の中で、これから生きる子ども達にとってコミュニケーション能力は、その基盤となる「生きる力」の一つです。日本の伝統文化、わが町「川辺」の美しさや魅力に自信や誇りを持ちつつ、積極的に外への関わりや豊かなコミュニケーションが図れる人に育ててほしいと願って止みません。

そのために、日常の学校生活・家庭生活の中で鍛えるべきことがまだまだたくさんあると思います。を新たにした所です。めまぐるしく動く世の中であって、とかく新しいものや機能的なもの、流行しているものだけに興味や関心が集まりがちです。しかし、足元の日本の伝統・文化、日本人としての心こそ、次の世代に引き継ぐべき『大切な宝』であることを忘れないでほしいと思います。同時に、今、目の前で接している人からその恩恵を授かっていることを見抜ける人であってほしいと願っています。

